

流体科学研究所の歴史

History of "Institute of Fluid Science, Tohoku University"

本研究所は、1943年10月「高速力学に関する学理およびその応用の研究」を目的として東北帝国大学に高速力学研究所として設立されて以来、半世紀以上我が国の「流れ」に関する研究の中心的役割を果たし、また数多くの人材を世に送り出してきました。この間、当時日本でもまれなジェットエンジンの開発や、ポンプや水車等エネルギー変換機器の開発、そして医療機器や交通機器関連の基礎研究に多大な貢献をしてきました。また、時代の要請の変化に対しても敏感に対応し、研究領域をより広範な流体科学の分野へと拡大するため、

1989年、「流体に関する学理およびその応用の研究」を目的として研究所を「流体科学研究所」と改めて再発足しました。

さらに、1998年に二度目の研究所改組・拡充を行い、流体のマイクロ現象、多重複合した流れの解明、固体の挙動、電磁波、情報などの広範な流動現象の学際的研究を集中的に行っています。共同研究の輪は国内に留まらず、諸外国まで拡がり、各種研究所、民間企業、そして各種団体とも積極的に共同研究を行い、研究成果を社会へ反映させています。

1943 (昭和18年)

10月 東北帝国大学に高速力学研究所の設立

1950 (昭和25年)

5月 沼知福三郎教授、日本学士院賞を受賞「翼型のキャピテーション性能に関する研究」…水力機械（ポンプ、水車）の開発に貢献

1965 (昭和40年)

11月 沼知福三郎名誉教授、日本学士院会員となる

1975 (昭和50年)

6月 伊藤英覺教授、日本学士院賞を受賞「管内流れ特に曲り管内の流れに関する流体力学的研究」…原子力発電所熱交換器やロケットエンジンの冷却流路の設計に利用

11月 沼知福三郎名誉教授、文化功労者となる

1979 (昭和54年)

4月 気流計測研究施設を新設…世界トップレベルの風洞実験設備

1988 (昭和63年)

4月 気流計測研究施設を廃止し、衝撃波工学研究センターを新設

1989 (平成元年)

5月 流体科学研究所への改組転換

1994 (平成6年)

12月 伊藤英覺教授、日本学士院会員となる

1998 (平成10年)

4月 改組により新たな流体科学研究所として再出発
衝撃波工学研究センターを廃止し、衝撃波研究センターを新設

2000 (平成12年)

4月 中核的研究拠点(COE)形成プログラムとして衝撃波学際研究拠点を設置…トップレベルの衝撃波研究

10月 日本SGI社による寄附研究部門を新設…スーパーコンピュータの強力運用

2001 (平成13年)

10月 流体科学研究所によるAdvanced Fluid Information (AFI) 国際シンポジウムを開始…流体情報の啓蒙

2003 (平成15年)

4月 衝撃波研究センターの改組により、流体融合研究センターを発足…流体と重点分野との融合化

9月 21世紀COEプログラムとして流動ダイナミクス国際研究教育拠点を設置…世界トップレベルの流動ダイナミクス研究推進

2004 (平成16年)

11月 上條謙二郎名誉教授、紫綬褒章を受章…ロケット燃料ポンプの問題解決

2005 (平成17年)

11月 次世代融合研究システム導入…計算と実験の融合手法の提案

2006 (平成18年)

11月 伊藤英覺名誉教授、文化功労者となる

2007 (平成19年)

9月 流動ダイナミクス国際シンポジウム開催…流動ダイナミクスの学理構築

2008 (平成20年)

4月 南部健一名誉教授、紫綬褒章を受章…ボルツマン方程式の厳密な解法

7月 グローバルCOEプログラムとして流動ダイナミクス知の融合教育研究世界拠点を設置…世界トップレベルの流動ダイナミクス研究推進